

## Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.83

(2014年10月刊行)

### Aid Fragmentation and Effectiveness for Infant and Child Mortality and Primary School Completion

Mitsuaki Furukawa

Research Project: [開発援助レジームにおける財政支援の意義と限界](#)

#### ■付加価値

本稿の目的は、欧米ドナー間で「援助の氾濫」への批判がある中で、プロジェクト援助の集中度と援助の有効性の関係を、実証分析によって示すことにある。これまでの「援助の氾濫」と援助の有効性の関係にかかる先行研究の問題点は、本来限定的であるプロジェクト援助の効果を、国レベルでみていたことである。これに対して、本稿では、特定のセクター—保健及び教育セクター—に限定して、それぞれのセクターに対して、プロジェクト援助の集中度と援助の有効性の関係を、途上国の援助依存度も考慮に入れつつ示した。このアプローチは、開発援助の実務に寄与するものと思われ、また、それが本稿の付加価値としてあげられる。

#### ■リサーチ・デザイン

本稿では、援助の氾濫を「開発途上国において実施されている断片的で調整されない多数のドナーのプロジェクトがドナーの定めた異なる実施手続によって行われていることにより、取引費用が大きくなっている状態」と定義した。そのうえで、「援助の氾濫」を指標化するために、Herfindahl-Hirschman Index (HHI)を用いて、OECD/DAC IDS (国際開発統計) CRS (Creditor Reporting System: 信用供与国報告制度) のデータカバー率の高い2002年以降の支出ベースのプロジェクト数を基に計測し、被説明変数を乳幼児死亡率および初等教育修了率として、実証分析を行った。

#### ■主な結論（政策的含意を含む）

本稿の分析の結果、乳幼児死亡率に関しては、「援助の氾濫」が改善されても、それにより乳幼児死亡率への悪影響が小さくなるかは判断できない結果となった。つまり、保健プロジェクト援助の集中の程度を高めても乳幼児死亡率を軽減しない可能性があることが示された。また、中途半端なプロジェクト援助の氾濫の改善はかえって悪化を示すことが認められた。一方、初等教育修了率に関しては、おおむね、プロジェクト援助を集中させることにより、一貫して正の影響を与えることがわかった。本稿の結果から導き出される政策的含意としては、プロジェクト援助の氾濫に対する対応を一律に適用することの是非の検討が必要であることなどが示された。